

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 2 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870700261
事業所名 (ユニット名)	グループホーム やすらぎの家 A棟
記入者(管理者) 氏名	井上 博子
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 10 日

<p>【事業所理念】 「うるおいのある生活を共に」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①地域の方にやすらぎの家でサロンを開催して頂き、情報交換を行う。 ・運営推進会議で地域の方との交流について話し合う。・地区福祉懇談会の時などに声掛けを行う。・サロン開催前にやすらぎの家の見学をしてもらい、利用者さんと話して頂く。・同地区のグループホームと合同で認知症の勉強会を地域住民と行う計画を立てる。 ②災害対策強化のため、運営推進会議に地元警察署か消防署の方に参加して頂く ・年に2回行っている火災時避難訓練時などに災害対策強化について話を聞くとともに、運営推進会議の参加をお願いする。・防犯訓練の計画、実施。 ～その他～コロナ禍もあり実施できたのは災害対策強化の為の助言を消防署員さんから頂いたことと、防犯についての話し合いをした事のみだった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は開設20年目を迎え、法人・事業所として、働きやすい職場環境づくりに努めていることもあり、長期に働く職員も多い。また、事業所内は清掃や消毒、換気が行き届き、気になる匂いも感じられず、快適な空間となっている。管理者等は、利用者一人ひとりの日々の生活スタイルや、やりたいことを大切に考え、利用者に寄り添う形で時間がゆるやかに流れている。さらに、入浴時における職員と1対1の場面での会話を重視して、職員は利用者の思いをくみ取る会話を心がけている。コロナ禍においても、日常的に、利用者は事業所周辺を散歩したり、ドライブでコスモスの花を見に出かけたりするなど、気分転換をすることができている。加えて、笑いヨガを取り入れるなど、地域の中で見守られながら、利用者は笑顔で笑いのある生活を送り続けることができている。</p>
-----------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○ 利用者の思いや、どのように暮らしたいか希望や意向を聞いたり、話せない方には日頃の表情などを見て希望や意向を把握するようにしている。</p> <p>○ 本人の意向が困難な時は本人の表情や行動などをみて検討をしている。</p> <p>○ 面会に来られた時や電話での対応で、本人について話し合っている。</p> <p>○ 介護日誌や連絡ノートなどに記入し、共有化するための記録をしている。</p> <p>△ 本人の思いを聞き、職員同士で話し合い、留意しているが決めつけている時もある。</p>	◎	/	/	/	○	入居時に、職員は家族から思いや希望を聞くとともに、面会時や電話連絡時などを活用して、新たな情報を入手している。また、利用者には、入浴時などのゆっくりと話しができる場面で、思いや希望などを聞き取るようにしている。さらに、聞き取った情報は、介護日誌や連絡ノートを活用して、職員間で情報を共有している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○ 本人に伺ったり家族にもどのように暮らしていたのか、またサービス内容などきちんと聞くよう心がけている。</p> <p>○ 利用者の心身の状態、有する力の現状を把握している。</p> <p>○ どのような時に不安になったり、安心しているのか記録し話し合いを把握している。</p> <p>○ 何が原因で不安になるのかその時の状態を職員同士で話し合っている。</p> <p>○ 日によって違うが、一日どのようにして過ごされているか生活リズムを把握するよう記録している。</p>	/	/	/	/	○	入居時などに、家族から利用者のこれまでの暮らし方などの聞き取りを行うとともに、面会時や電話連絡時を活用して、新たな情報を聞くよう努めている。また、職員は利用者のできる・できない状況も把握し、情報を整理している。さらに、健康チェックのほか、食事・排せつなどのリズムを把握し、利用者一人ひとりの情報を個人ファイルにまとめている。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○ アセスメントを行い、本人の視点で話し合いを行っている。</p> <p>○ 出来る事出来ないことを見極め、また家族や職員に必要な支援は何か伺い検討している。</p> <p>○ 本人が良い暮らしをする為に、どうすればいいか課題として明らかにしている。</p>	/	/	/	/	○	事業所では、利用者に関するアセスメントシートや連絡ノートを活用しながら、職員間で情報を共有している。また、6か月に1回開催するケース検討会議を活用して、職員間で利用者の視点で検討をしている。さらに、嘱託医にも、日々の利用者一人ひとりの体調等を報告し、健康管理に繋がっている。

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向をふまえて、暮らしやすい介護計画を作成するよう心がけている。	/	/	/	毎月スタッフミーティングを実施し、利用者に関するかかわり方の見直しなどの話し合いをしている。また、6か月に1回、再アセスメントやケース検討会議を実施し、利用者や家族の意見を踏まえながら、計画作成担当者を中心に職員間で話し合い、介護計画を作成している。さらに、会議では職員から意見やアイデアが活発に出され、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人が良い暮らしが出来るよう本人や家族などと話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の利用者も離床して他利用者と一緒に過ごせるような介護計画の内容にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の面会、外出、ボランティアの来訪等も介護計画書に入れているが、今年はコロナウィルスの事もあり交流があまり持っていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画書の内容が分かるように連絡ノートや経過記録に介護計画に挟み、いつでも確認出来るようにしている。	/	/	/	介護計画は、利用者一人ひとりの個別ファイルに整理され、職員は利用者へのかかわりやサービス提供を実施している。日々のサービスの支援内容は記録されているものの、気づきなどの記載は少なく感じられる。また、事業所では、同じ内容を記録物を数か所記載する必要があるなど、省力化や職員の負担軽減までには至っていない。今後は、介護計画に基づく、かかわり方やサービスの実施状況を連動させて、確認しやすいような書類の在り方を職員間で検討するとともに、統一された記録の記載方法の勉強会を実施するなど、分かりやすい記録が作成されることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	記録に記載している事もあれば、出ていないこともある。職員間での状況確認をして、日々の支援につなげたい。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	個別に記録しているが、具体的には記入がなかなか出ていない。	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員のアイデアや気づき工夫をミーティング時などに話し合い記録しているが個別にはしていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	利用者一人一人の期間に応じて介護計画書の見直しを行っている。	/	/	/	6か月に1回、再アセスメントを行うとともに、事前に家族に書面で意向を確認するほか、事前に把握した情報をケース検討会議の中で話し合い、介護計画の見直しをしている。また、毎月スタッフミーティングにおいても、計画の見直しが必要な利用者の話し合いをしている。さらに、定期的に、担当職員が利用者の現状確認をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当職員がケアの内容確認などを行い、必要であれば連絡ノートに記入し変更事項など共有している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態が悪化した時や入院した時などに見直しをし、新しい介護計画を作成している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的、また緊急案件のある時はその都度会議を行っている。	/	/	/	毎月実施するスタッフミーティングなどを活用して、職員間で話し合いをするとともに、6か月に1回ケース検討会議を実施している。また、緊急案件のある場合には、その都度話し合いをしている。さらに、会議の議事録を連絡ノートに貼り付けて、参加できていない職員も含めて確認してもらうなど、職員に伝達できる仕組みづくりができています。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お互いの情報、気づきや考え方など話しやすい雰囲気で行っている。以前は勤務時間後に行っていたが、負担軽減の為勤務時間に行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	可能な限りの職員に参加してもらえよう工夫している。勤務により難しい時もある。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	書記担当が議事録を作成し連絡ノートに添付、確認後押印している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートに添付し、申し送りの時などに報告をしたりしている。	/	/	/	介護日誌や連絡ノートなどを活用して、日々の朝夕の申し送りを実施している。また、職員は書類の確認後には押印やサインをするなど、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	介護日誌、介護記録、連絡ノートに記入し、全ての職員に伝わるようにしている。家族とは面会や電話の時にしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	外出等の機会は減っているが、ひとり一人何かやりたいことがあれば希望を取って叶えるようにしている。家事は進んで役割を持ち過ぎて頂いている。				屋外の散歩や屋内の運動、計算、漢字カード、新聞・雑誌を読む、レクリエーションなど、職員は利用者のやりたいことが、できるだけ叶えられるよう柔軟な対応に努めている。また、職員は一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、笑顔で生活を送る利用者の様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者に自己決定してもらえるような機会や場面をつくるようにしている。			◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分で決める利用者が多い為、本人に聞いて決めてもらったり、納得してもらおう支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	本人のペースや習慣を大切にしていきたいが、どうしても職員のペースになっていることがある。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しい雰囲気を作り、利用者がいきいき出来るような言葉掛けを行い笑顔がでてきた利用者もいる。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	スキンシップや声かけをして、表情や行動をみながら本人の意向に沿った暮らしが出来るよう支援している。また、利用者との交流で笑顔が出ている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修で学んだり、日々職員同士で利用者に対して言葉掛けなどに気を付け、常に意識した行動に努めている。		◎	○	事業所では、利用者の人権や尊厳に関する内部研修を行い、職員は利用者へさりげない声かけなどを行うことができています。また、事業所新聞の写真や情報の掲載など、個人情報の使用についても、事前に同意を得るなどの配慮がされている。さらに、居室の入室時には、ノックや声かけを行い、職員は確認の上で入室することができています。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	あからさまな介護や誘導の声かけをしないように、さりげない言葉かけや対応を行うようにしている。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心に配慮し、無理強いしないよう介助を行っている。				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ドアをノックしたり、声かけをして入るようにしている。何か有る時は、ドアを開めるようにしている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者のプライバシー保護の為、個人情報の取り扱いについてミーティングで定期的に確認し、また漏えい等ないよう、就業時に誓約保証書に署名押印をしている。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	野菜の下ごしらえや、料理運び、台拭きなどお互いに助け合い、また教えて頂いたり感謝し合う良い関係が築けている。				調理の下ごしらえや配膳、台拭き、掃除、洗濯物たたみなど、利用者ができることは職員と一緒に、感謝の気持ちを伝えていく。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、お互いが気持ち良く過ごせるような声かけなどの配慮をしている。以前は、認知症などの進行に伴い、被害妄想でトラブルが起こることがあったが、スタッフが早期に間に入るなど、現在は落ち着いた状態で生活を送ることができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすことの大切さを理解している。	○	自分ですることが難しい利用者の手伝いをされたり、利用者同士が助け合っているが、少し難しい時もある。共同生活の一員として大切さを理解している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	トラブルがあった時には、双方の利用者に声を掛けて、孤立しないよう努めている。また、利用者同士と一緒に過ごせるよう職員が中に入って一緒に話したり、傍で見守ったりと状況に応じて対応している。			◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった時には双方の利用者の話を聞いて、不安や支障を生じないように気をつけている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	家族や、これまで支えてくれた人のことを来訪時に伺ったりし把握するよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者が培ってきた地域との関係、馴染みの場所について家族や知人の来訪時などに伺い把握するよう心がけている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	知人や友人に会いに行く事は難しいが、病院や市役所などに行った時に、昔の知人や知り合いなどに会い話をし、昔のことを思い出し懐かしまれる。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつも玄関を開けておき、家族や知人等がいつでも気軽に訪れ居心地良く過ごせる雰囲気になっているが、今年もコロナウィルスの影響もあり、難しかった。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	玄関先に出られている方には散歩の声かけをしたりし、進んで出掛けられるよう促し、戸外に出る機会を持つようにしている。	○	×	◎	コロナ禍においても、日常的に、利用者は敷地内や事業所周辺を散歩したり、天気の良い日には玄関先で日光浴をしたり、屋外で洗濯物を干すなど、気分転換が図れるよう支援している。また、感染状況を見計らいながら、ドライブで買い物やコスモスの花を觀賞しに行くなどの工夫もしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	運営推進会議や地域での行事参加交流し、意見交換を行い支援をしているが今年もコロナウィルスの影響もあり難しい。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	お天気の良い日にリクライニングや車椅子でホーム外に出て、気分転換出来るようにしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者とも話し合い、年間行事計画を立て計画に合わせて支援を行っている。年間行事以外にも外出する機会を持つようにしている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修などに参加し更に理解を深め、ミーティングで話し合いを密にし、利用者ひとり一人にあったケアを行うようにしている。また、マッサージ療法や、笑いヨガなども行っている。				テレビ体操や口腔体操などを行い、心身の機能低下を予防している。また、日々の生活の中で、家事や花の世話など、利用者一人ひとりに役割を持っていただけるような支援に努めている。また、事業所では、職員は利用者のできる・できない状況も把握し、できることは利用者自身に行ってもらったり、一緒にしたりするなど、職員は待つ介護や見守りの支援にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の生活の中で、摂食機能低下が見られるようであれば、専門家に話を聞き、食事をする時の姿勢やポジショニングの変更、これから食事であるとの理解をしてもらう為にコップを手にとって頂くなど維持向上が図れるようにしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	役割を持ってもらい、出来る事、出来そうな事はして頂くようにしている。また、出来るような場面作りをするよう心がけている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの生活歴や習慣などを把握し、本人が生き生きとした表情が出るよう役割を持ってもらったり、声かけを行ったりしている。				お茶の葉パック詰めや排泄物等の処理に使用する新聞紙たため、洗濯物干しやたたみなど、利用者のできる役割を担ってもらい、手伝ってもらえるよう支援している。また、利用者同士で会話を楽しめるような支援も努めている。さらに、笑いヨガを取り入れるなど、利用者が笑顔で、楽しみのある生活を送ることができている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常的に一人ひとりの楽しみであるお化粧や、おしゃべり、自室での自由な時間を大切にし、役割分担をし活躍出来るような声かけを行ったりしている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地区の納涼大会等に参加し、地域の方達の中に入り汗をかきながら盆踊りをされたり、美味しい物を食べるなど楽しみが増えるような支援を行っていたが、コロナの影響もあり難しい。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	その日着る服と一緒に選んだり、外出する時は髪をどくなどの声かけをしたり、髪が伸びてくれば散髪の声かけを行い同行している。				自分で、化粧をすることや帽子をかぶるなどのおしやれを楽しむことが好きな利用者もいる。また、起床時に、職員は声かけを行い、自分で洋服選んだり髪型を整えるなど、できることをしてもらい、できないことをサポートしている。さらに、衣服の乱れなどが見られた場合には、さりげなくカバーをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	介護計画の担当者が、ご家族、本人と相談し履物や部屋に飾る物を買に行ったり、部屋の片づけを行ったりしている。髪形なども、本人の希望に応じ声かけし整えるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	押しつける事のないよう、利用者の気持ちや大事にし、ご希望に添えるよう心がけている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の希望を聞き行きたい所に行けるよう、一緒に考えたり、服装もその人らしく好みを考え支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	2~3ヶ月に一度、近所の理容師さんに来て頂き、散髪してもらったり、行ける方は近くの美容室に行ったりしている。また、さりげなく声かけし食べこぼしなど拭きとるようにしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	職員も気をつけて声かけをするようにしている。本人の希望時に行けるように支援している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人がいつも気をつけていたことを継続出来るよう、声かけし行っている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	一人ひとりの状態、食べられる量を把握し、粗キザミ、小刻み、ミキサー食などの食事が出来るよう支援している。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	食材選びは殆ど配達か、職員が買い出しに行っているが、出来ることを声かけし、一緒に行うようにしている。			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	野菜の下ごしらえや、料理運び、台拭きなどできることをして頂き、利用者の自信や達成感につなげている。						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者一人一人のアレルギーの有無や好きな物、苦手な物等を把握し支援している。						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	地産地消で、旬の物を取り入れたり、家族さんから頂いたみかんや、やすらぎの家で収穫したサツマイモでふかし芋をおやつにしたりしている。			◎			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	利用者一人一人の咀嚼、嚥下や健康状態に合わせた食事形態を取り入れ、目で見て、匂いで食事時間だと分かるよう工夫している。また、食事時テレビに夢中にならないようテレビは消し、利用者好みの音楽をかけている。						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器やお箸などは自宅に使っていたような物を使っている。			○			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事介助の方がいる為、利用者と同時に食べる事は困難だが、傍に寄り添い一緒に食べるよう心がけている。また、利用者のペースに合わせて、声かけやサポートをさりげなく行っている。			○			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な状態であっても、なるべく食堂に出てもらい音や匂いを感じて頂くよう配慮している。		○	○			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	一人ひとりの状態に応じて食べられる量を把握し、食事や水分量が確保できるよう時間をずらしたり、好みの物を食べてもらったりし配慮している。						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量、水分量の少ない利用者には低栄養にならないよう、食事形態の工夫や、時間をずらして少しずつ食べて頂くなど工夫している。必要であれば、主治医や管理栄養士に相談し栄養補助食品を摂取している。						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	調理担当の職員が交代で献立をたて、利用者の食べたい物など聞いたり、管理栄養士にアドバイスをもらったりしている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具は洗浄後食器乾燥機で乾燥し消毒している。また、ふきんやまな板など毎日ハイターで消毒し、食材は賞味期限等に注意し食材の管理に努めている。						

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後口腔ケアや声かけを行い口腔内の感染防止に努め、職員に歯科衛生士がいるので、アドバイスももらったりしている。必要であれば歯科受診調整を行っている。				事業所には、歯科衛生士の資格を持つ職員がおり、日常的にアドバイスをもらうことができている。また、毎食後に、職員は声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを可能な限り、利用者自身で行えるよう支援している。必要に応じて、自分でできにくい場所は職員が介助をしている。さらに、自分で歯磨きができる利用者を含めて、口腔内の状況を確認することができている。加えて、異常が見られた場合には、状況に応じて、歯科医の診察を検討している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の口腔ケア時や、食事時に口腔内の状態を確認している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	職員に歯科衛生士がいるので日常的にアドバイスをもらっている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分で出来る事はして頂き、仕上げを職員が行うようにしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	出来るところまでして頂き、義歯を外した後にポリドントにつけたりし口腔内の清潔を支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	口腔内に不具合があれば歯科に連絡し、見て頂くようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	一人ひとりの状態に応じて、排泄のリズムを掴みトイレ誘導を行うようにしている。チェック表に失禁とトイレ排泄の区別をつけて記録をしている。また、トイレでの排泄を重視し、日中は布パンツ、夜間は紙パンツにするなどしている。				事業所では、声かけやトイレ誘導を行い、利用者ができる限りトイレで排泄できるよう支援している。中には、布パンツで過ごすことができている利用者もいる。また、排せつのリズムなどをチェックし、利用者一人ひとりのタイミングに合わせた声かけをしている。さらに、服薬している利用者が多いものの、ヨーグルトや牛乳、食物繊維を含んだ食材を活用するとともに、毎日の運動を行うなど、自然排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。一人ひとりの排便間隔を把握し、水分や食物繊維を多く取ったり、便秘薬の服用をしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェック表を確認、把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者が気持ちよく排泄出来るよう、ミーティング等で話し合ったりし、個々にあった支援を行うようにしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食物繊維、水分、乳製品を取ってもらったり、運動不足にならないよう歩行練習や体操、笑いヨガを取り入れたらしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	動こうとしたタイミングや、表情などを見て早目の誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中は布パンツに原取りパット、夜間は紙パンツにするなど本人やご家族とも相談し支援するよう心がけている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人ひとりの状況に応じて使い分けるようにしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維や乳製品、水分を多く取り、身体を動かすことを勧めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週に2～3回の入浴で利用者の希望を聞いたり、声かけしながら気持ちよく入浴できるようにしている。	◎		○	週2回を基本として、利用者は入浴することができる。また、入浴時には、気持ちに合わせた誘導を行い、できる部分を自分で洗ってもらっている。また、入浴剤を活用するなど、職員は利用者気持ちよく入浴してもらえることを目指した支援に取り組んでいる。さらに、入浴を拒む利用者には、時間や日にちを変更したり、声かけを工夫したりしながら、入浴してもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴剤を入れたり、会話をしながら入浴し身体全体の把握に努めている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗えるところは洗ってもらい、出来ないところを介助している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声かけし、拒否がある時は時間をおいたり、他の日に入って頂いたり気持ちよく入浴できるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前の健康状態を確認し、入浴後も水分補給をしたりし状態観察を行っている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日中、夜間の様子を申し送りして把握、情報の共有をしている。	/	/	/	事業所では、日中の運動やレクリエーション、計算や漢字などの知的な刺激活動、屋外散歩、日向ぼっこなど、様々な活動や会話を取り入れながら、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。中には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるものの、昼寝や休息を取り入れながら、服薬していない利用者も多い。また、服薬によるふらつきなども見られるため、医師に相談しながら、極力服薬に頼らない支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜間良眠出来るよう、日中活動を動めフロアで過ごして頂くようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	常に状態観察を行い、スタッフ間でも話し合い医師に報告、指示を頂いている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ソファや畳の間、各居室で心身を休める事が出来るようにしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	個人で携帯電話を持たれ電話をかけ、やりとり出来るようにしている。また、必要に応じ電話をかけたりにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	スタッフが電話をし受話器を渡したり、ご家族の声を聞いて頂いたり支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば電話をして頂き、またそのようにお伝えしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	返信のお手伝いや、電話の声かけをしたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	不安な時などご家族にご理解、了承頂き、本人が電話をかけたい時にかけて頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	買物に行った時など、預かり金の中から現金をお渡しし買物の楽しんで頂いているが、現在は感染防止のため難しい。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	いつもではないが外出した時にお金を渡し、買物支援を行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	移動バン屋さんと同様になり、理解や協力をして頂いている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	本人、家族と相談し、お金の管理を行い、買物や散髪時などお金が使えるよう支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	契約時にお金の所持について話し合い、必要であれば持つて頂くなどしている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	契約時に預かり金について説明し、買物をした時は個別の出納長に記入しレシートや領収書を貼り、面会時に確認してもらっている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	訪問マッサージや、理容師さんに来て頂くなどし、利用者さんの状態に合わせて柔軟な対応を行っている。	◎	◎	コロナ禍において、外出や面会制限は設けられているものの、訪問マッサージの利用や理容師の訪問など、事業所では利用者や家族の要望に応じて、可能な範囲で柔軟に対応している。また、家族とともに、病院受診の準備を行っている。	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	常に玄関を開放し、花や野菜などを植え気軽に出入りや声が掛けやすいように工夫をしている。	◎	◎	◎	事業所では、日中は常に玄関の鍵を錠せず、利用者が自由に出入りできるようにしている。また、玄関周りには花を植えているほか、敷地内には畑もあり、家庭的な雰囲気づくりを行い、来訪しやすさが感じられる。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	室内には利用者さんと一緒に作成した季節ごとの飾りや、作品を飾り居心地の良い雰囲気を作っている。	◎	◎	◎	事業所の廊下には、一緒に作った季節の作品が飾られ、利用者や来訪者は季節を感じる事ができる。食堂と居間の兼用スペースには、ソファなどが置かれ、思い思いの場所でくつろぐことができる。また、利用者は両ユニットを自由に行き来することができ、開放感がある。清掃や消毒、換気が行き届き、気になる匂いも感じられず、快適な空間となっている。さらに、日めくりカレンダーがあり、季節や日付を分かりやすくしている。加えて、食事の際には音楽を流してメリハリをつけるなど、食事の雰囲気を楽しめるようにしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除をし、不快な臭いがないようにしている。トイレには消臭スプレーを使用している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節ごとの飾りや音楽をかけたしたり、楽しく過ごせるよう工夫をしている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う者同士が居間で話したり、食後昼寝をしたり気ままに過ごして頂いている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	必ず扉やカーテンを開めるよう配慮をしている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	ご主人のお位牌や家族の写真を飾ったり、服が取り出しやすい家具の配置をしたりし、居心地良く過ごせるようにしている。	◎		◎	居室には、エアコンやベッド、タンスなどが備え付けられている。また、家族の写真や位牌、時計などを持ち込み、心地良い空間づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室に名札を掛け、トイレや自室が分からない方の為に表示や矢印をし、安全に生活出来るよう工夫をしている。				◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	自分の持ち物には記名をし、日付や時間がわかるよう日めくりカレンダーや時計を壁にかけている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	いつでもお茶が飲めるよう、共用スペースにポットや湯のみを置いたり、新聞や本が読みたい時に読めるよう置いている。また、ボタンが取れた時にいつでも付けられるよう裁縫道具を置いている。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	いつも玄関、各ユニットを開放し気軽に出入りが出来るようにしている。また、全ての職員が理解している。	◎	◎	◎	日中には、事業所の玄関や利用者の居室は常に開放されており、利用者は自由に出入りをする事ができるようになっている。また、事業所として、地域住民へ事業所のことや利用者の様子などを周知することで見守りにも繋がり、利用者は安心して敷地内や事業所周辺を散歩できる見守り体制づくりができています。さらに、玄関にはセンサーが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	ご家族の方は鍵をかけないことを理解して頂いている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関は誰でも出入りできるよう開放している。玄関にセンサーを設置し、出入りが把握できるようにしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	個別カルテを確認し、病歴や留意事項について把握するようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックし記録し、状態の変化を早期に発見できるようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば看護師や医師に相談し、指示を伺うようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人、ご家族と相談し、受診病院を決めている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居時に本人、ご家族に納得頂いた医療機関に毎年1回の健康診断や、必要時に検査などして頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	協力医療機関である浦岡医院と24時間の医療連携体制を取っている。必要に応じて検査をして頂き、結果をご家族に連絡している。結果について再検査の必要等あれば、本人やご家族の合意の上で行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時に情報提供書を作成し渡している。電話や来訪時に必要な情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中、管理者や職員も来訪し情報交換したり、ご家族医療担当者とのカンファレンスを行ったりしている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	大洲市内の福祉関係の研修や電話連絡をし情報交換を行い、連携がいつでも取れる関係づくりをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化に気付いたら職員同士で話し、主治医や看護師に相談している。往診時も変化があれば報告し対応などを行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	常に主治医と連絡が取れる状態にあり、変化があれば相談し、指示を頂き対応を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタルチェックや状態観察を行い、介護日誌や申し送りに記入している。浦岡医院に必要な方の申し送りを毎朝FAXで送っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋の内容を理解し、変更があれば連絡ノートに記入し情報を共有している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	本人の顔と名前、朝、昼、夕が合っているか、飲み込めているかの確認を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	下剤や安定剤などは、本人の状態を把握し服薬して頂いている。体調変化が無い日頃から観察を行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	よく膀胱炎になる方がいるが、服薬している時は状態を確認し報告をしている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が悪くなれば、医師と相談し早目にご家族に伝え、今後の事も相談するようになっている。	/	/	/	事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時や状況に応じて、利用者の思いや家族の希望を聞くとともに、医師を交えて話し合い、方針を共有している。また、年1回看取り介護等の研修を行い、職員間で対応方法を確認できている。さらに、事業所では、多くの看取り介護の経験があり、法人の医療機関の連携や協力体制もできており、職員は慣れた対応ができています。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	状態が悪化した場合、どうするか希望確認しご家族、医師と共に話し合い、方針を共有している。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看取りを経験した時に、ミーティングでスタッフひとり一人に看取りをして良かったことを話したりし、力量を把握するようになっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	協力医療機関と連携し、できることを行うことを説明しご理解頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	最期の人生に苦しまず、穏やかに過ごせるよう看取りの内部研修を行い検討や準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	ご家族が思いを残す事がないよう、ご家族の希望を取り入れたりしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	定期的に感染症の研修を受講している。研修ではウェブで実技もあり具体的な予防策も学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	嘔吐時の処理セットを準備し、ミーティング時に置いている所やどのように行うかの確認を行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	保健所や県庁、市役所からのメールや新聞などで把握し、感染予防に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	浦岡医院や、運営推進会議時に小学校、市役所、他施設などからの情報収集に努め、感染症の流行に対応している。今年は感染拡大のため、書面にて報告したり、情報収集を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	1ヶア1手洗い、うがい、マスク着用を徹底し利用者や、来訪者にも手指消毒、マスク装着をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族ともできるだけコミュニケーションをとり、利用者をご家族と一緒に支えていく関係作りに努めている。				コロナ禍以前は、遠足やクリスマス会などの行事に、家族の参加協力を呼びかけて、交流を図ることができていたが、現在のコロナ禍において、事業所での行事や活動は職員と利用者のみで行い、家族の呼びかけは自粛している。また、行事や事業所内の様子は、やすらぎの家新聞や写真などを家族に送付して伝えるとともに、新聞には写真をふんだんに取り入れることで、家族に日常生活をイメージしてもらいやすくなるような工夫をしている。さらに、訪問調査日には、野菜などの差し入れを持ってくる家族の姿を見ることができた。加えて、運営推進会議の中で、利用者の様子や事業所内の出来事などを報告するほか、電話連絡時に近況を伝えることはあるものの、現在のコロナ禍において、紙面による報告と、ハガキによる意見集約が多くならざるを得なくなっている。利用者家族等アンケートは、多くの家族から回答の協力を得ることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	居室にご家族との写真や誕生日カードを飾ったり、来訪時に「いつの写真？」など話しやすい雰囲気作りに努めている。また、お茶を出し、話しやすいように居室で過ごして頂くようにしていたが、今年も感染対策のため玄関先に飛沫防止シートを挟み面会をして頂いている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	遠足やクリスマス会等、案内状をお送りし一緒に過ごす機会を作っていたが、今年は感染対策のためやすらぎの家の利用者様、スタッフで行っている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	定期的に広報をお送りし、日頃の様子などお伝えしている。また、請求書送付時に日頃の写真や、様子などお伝えしている。	◎		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族来訪時などに不安に思っている事などを聞き、内容を把握し報告を行っている。また、介護計画書送付時に介護計画書についてのお問い合わせをお送りし、検討事項等を記入して頂いている。今年も感染対策のため電話連絡を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	来訪時などに、これまでの本人、ご家族の話や関係の理解により理解しより良い関係を築くようにしている。また、今後どのようにしていくのかと声かけや対応などお話しするようにしていたが、今年も電話連絡で行っている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	定期的に運営推進会議を行いお伝えするようにしている。また、会議の議事録をご家族にもお送りしている。	◎		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に2回の行事にご家族も参加して頂き、食事をしながら家族同士の交流も持って頂いていたが、今年も感染防止のため、やすらぎの家の利用者様スタッフで行っている。				
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	電話した時などに現状を報告、また今後についてもどうするか本人、ご家族が選択できるよう支援している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	ご家族が気軽に話せるように、笑顔や話し方などに気を付け、積極的に声かけするようにしていたが、今年も感染対策のため電話連絡や書面にて行っている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には契約書、重要事項説明書など説明し、不明な点などあれば伺い、変更があれば書面にてお知らせしご理解頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	死亡退去、入院長期により退去が殆どであるが、他施設移動の為退去の際には協力させて頂いている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び、内容変更時には理由などを書面にて説明し、同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議時や年1回の地区懇談会時に、ホームの現状などをお伝えしご理解を得ているが、今年も感染防止のため書面で行っている。	/	○	/	コロナ禍において、ほとんどの地域行事が中止され、ボランティアの受け入れも含めた交流できる機会は減少しているものの、利用者と一緒に事業所周辺を散歩する際には、地域住民と挨拶を交わすとともに、地域に事業所新聞を回覧してもらったり、地域住民の見守り体制や、よく近隣住民から、「コスモスの花を持って行きなさい」と声をかけてくれるなど、良好な関係も構築されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩の時に近所の方が出られていたら挨拶をしたりしている。また、散歩をされている方がホーム外へ出ていることを教えて下さっている。地区の行事等は中止で参加できていないが、広報を回覧してもらったり、公民館に置かせて頂いている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者が散歩に行く時などに声をかけて頂く。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近くの幼稚園、小学校、中学校と交流を持ち、定期的に行き来していたが、今年も感染対策のため出来るように交流をしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらったりなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近くの畑の方が「お花を摘んで行きなさい。」など声をかけて頂いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所のボランティアの方が定期的に笑いヨガ、三味線の演奏など来て頂いていたが、感染対策のためDVDを持ってきて頂き、DVDを見ながら笑いヨガなどしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	一人ひとりの残存能力を維持出来るよう、必要な方にはマッサージを利用して頂き、また、介護相談員さんに来て頂き利用者さんの話を聞いてもらったりしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くの公民館を利用、避難訓練を行ったり、誕生日には近くのレストランで誕生会を行ったりし関係を深めていたが、今年も感染対策のため、出来ることを行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	公民館長さんや小学校の校長先生、家族や利用者、近所の笑いヨガの先生にも参加して頂いていたが、今年も感染対策のため、書面にて報告を行っている。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、地域関係者、市担当者等の参加を得て開催している。コロナ禍以前は、会議の開催前の時間帯に、笑いヨガなどを取り入れて、参加メンバーや家族に参加してもらいやすい工夫をすることもできていた。また、現在のコロナ禍において、書面での会議開催となり、資料を送付した報告と、書面での意見集約に留まらざるを得なくなっている。さらに、会議では、外部評価のサービスの評価結果等を報告し、意見をもらうこともできている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者や、サービスの実績等についてお伝えし、自己評価、外部評価を行った時は内容の報告、不明な点など伺っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回意見交換を行い、取り入れた時には報告させて頂いていたが、今年も感染対策のため、書面にて行っている。書面報告時に葉書を送り、報告書を読んで意見や助言を頂いている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議前に笑いヨガを行い、話しやすい雰囲気作りをし2ヶ月ごとの第3木曜日に行っていたが、今年も感染対策のため、書面にて報告を行っている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ホーム内掲示、運営推進会議委員、ご家族に報告書を送っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「うちのいるある生活を共に」の理念について共通意識を持ち、利用者さんと共に考えたケア理念を大切に日常生活を送っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニット食堂に理念を掲示し、説明するようにしている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	週に2～3回は来られ、スタッフ一人ひとりの力量を把握し、研修に参加出来るよう助言を頂いている。				日々の業務の中で、管理者は職員と一緒に利用者への支援をしながら、対応方法や助言を行うなど、気軽に相談や話しができる関係づくりができています。また、法人・事業所として、慰労会などの福利厚生交流の機会が減っているものの、職員の誕生日を祝うなどの心遣いもあり、勤続年数の長い職員も多い。さらに、職員は事業所内の研修や外部のウェブ研修などに参加し、スキルアップを図ることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日々の業務の中で、個々の状況に応じた対応法、考え方など助言を行っている。研修参加や、資格取得出来るよう取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与の決定、労働時間など把握し各自が意欲を持ち働けるよう管理者、職員と話す機会をもっている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市のグループホーム連絡会、地域密着型サービス協会の行う研修に参加したり、その他食事摂取、嚥下の勉強会をグループホーム内で行っている。今年も感染対策のため、研修自体が減っているが、ウェブで研修を受けたりしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1回慰労会で話を聞いたり、ビンゴゲームをしたり、職員の誕生日には花束を送ったりしている。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	拘束や暴力等だけでなく、言葉掛け、自分がされたら嫌な事はしないよう心がけている。内部や外部の虐待や拘束についての研修に参加し学んでいる。				事業所では、毎月実施する内部研修で虐待防止等をテーマに取り上げてを実施し、職員は学んで理解をしている。また、日々の申し送りやスタッフミーティングを活用して、不適切なケアなどの話し合いをしている。さらに、利用者へのかかわり方などで、気になる行為が見られた場合には、職員同士で注意し合うなど、意識を高めながら支援を行うことができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りやミーティング時など、当日出勤者とその都度話をし情報の共有を行っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアがあった場合、職員から職員へ直接注意をしたり、代表者、管理者から話をしたりし見過ごす事のないよう努めている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時や利用者対応時などに口調や対応の変化に注意し、変化があれば声かけし話すようにしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員で理解出来るよう、年に1回は身体拘束について研修を行っている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング時などにどのような事が拘束になるのか話しあったり、日々の対応時にもその都度話し合っている。				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	契約時にグループホームでは拘束を行わないことをお伝えしている。必要時は話をし、理解して頂くよう努めている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	年に1回は成年後見制度についての研修を受け学ぶようにしている。成年後見制度を利用している利用者がいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	グループホーム内にパンフレットを準備し、情報提供出来るようにしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	どのような社会資源があるか調べ、必要であれば社協や利用者が利用している司法書士等と連絡をとったりしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	独自のマニュアルを作成し、定期的に緊急時の研修を受け職員全員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	日々の対応時に応急手当が出来るようにしている。必要時に看護師による指導もしてもらっている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ひやりはっと・事故報告担当者が毎月まとめ、ミーティング時に職員間で検討をし再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングやケースカンファレンス時にリスクについて検討し、必要であれば介護計画書に入れ、職員全員で取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情担当は管理者で、マニュアルを作成し職員にも周知し対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	地域の方から苦情があった場合は、代表者に相談し対応している。必要時には市役所にも相談、報告を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	地域、ご家族共に良好な関係が築けており、より良い信頼関係作りを努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員さんが2ヶ月に一回来られ利用者ひとり一人が苦情を伝えられる機会を作っている。			○	日々のかかわりの中で、職員は利用者から話しや意見を聞いている。定期的に、介護相談員が来訪し、利用者や顔馴染みとなり、話しを聞いている。また、コロナ禍において、家族の来訪する機会は減っているものの、面会時や電話連絡時、ハガキなどを活用して、意見を聞くようにしている。さらに、事業所の玄関には意見箱も設置され、意見を取り入れて、サービスの向上に努める姿勢を窺うことができる。加えて、日々の業務の中やスタッフミーティングなどで、管理者は職員の意見を聞くことができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や来訪時など直接話し合っている。また、事業所の相談窓口、市役所、国保連等の相談窓口があり重要説明書にも記載している。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口だけでなく、病院や元担当のケアマネさんなど相談出来ることをお伝えしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	◎	週に2～3回は来られ職員の意見など聞いている。また、ミーティングに参加することもある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや申し送り、日々の業務の中で支援の方針などを話し検討している。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年自己評価を職員全員で行い、目的を理解するとともに、必要があればミーティングで話し合いを行っている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、全ての職員で意見を出し合い、管理者が取りまとめで作成をしている。また、サービスの評価結果や目標達成計画等の取り組みは、運営推進会議の中で報告し、意見をもらうことができている。さらに、評価結果は事業所内で自由に閲覧できるようにしているほか、家族にも結果を送付することができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を行い、出来ている事、出来ていないことを明らかにするとともに、意識統一の機会として役立てている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価結果を踏まえ、達成可能なものに順位を付け事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	外部評価結果などをご家族にお送りし、運営推進会議時にも結果報告や今後の取り組みを伝え、ご指導を頂くようにしている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	具体的な取り組みはお伝えしているが、常に確認は出来ていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、訓練後にミーティングなどで改善するところはないか話し合っている。	/	/	/	事業所では、原子力災害や地震災害、風水害に関するマニュアルなどを作成するとともに、年2回避難訓練を実施している。また、コロナ禍以前は、地区の防災訓練に参加協力できていたが、コロナ禍において参加を控えており、管理者は感染状況が落ち着けば、再度参加を予定している。さらに、災害発生時には、近隣住民や職員の家族等に、協力してもらえるようお願いしている。加えて、米などの食料品を余分に備蓄するなどの対応もしている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際に公民館へ避難し、公民館の職員にも手伝って頂いていたが、感染防止の為やすらぎの家で行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	訓練時に備蓄している物も実際に食べてみたり、期限などの確認も行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の公民館や、消防署、他事業所などと連絡し合う機会をつくり連携をとっている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	シェイクアウト訓練や、原子力防災訓練、地区の訓練などにも参加し、地域の災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地区の福祉懇談会などに参加し、地区のお年寄りが所在不明の場合、協力させて頂くことをお伝えしている。また、公民館に広報を置かせてもらったり、地区の回覧板で広報を見て頂いたりしている。	/	/	/	事業所では、市グループホーム連絡会や地域密着型サービス協会に参画するとともに、地区の福祉団体や公民館とのつながりもできている。また、事業所新聞を地域に回覧板を活用して周知するなど、協力関係や地域に知らせる取り組みも行われている。さらに、地域住民から認知症に関する相談もあり、地域の福祉の拠点として認識されている。加えて、市行政や地域包括支援センターなどと連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方からの相談の連絡があり、実際に来られ相談支援を行っている。	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	認知症カフェなど開催出来たらと思っはいるが、業務に追われ余裕がない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中学校の福祉体験や社協が行っているボランティア受け入れに参加しているが今年も感染対策のため難しい。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントや地区の清掃等に参加していたが、今年も感染対策のため難しい。施設廻りの道路などの清掃、除草など出来ることをしている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 2 月 16 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3870700261
事業所名 (ユニット名)	グループホーム やすらぎの家 B棟
記入者(管理者) 氏名	井上 博子
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 10 日

<p>【事業所理念】 「うるおいのある生活を共に」</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ①地域の方にやすらぎの家でサロンを開催して頂き、情報交換を行う。 ・運営推進会議で地域の方との交流について話し合う。・地区福祉懇談会の時などに声掛けを行う。・サロン開催前にやすらぎの家の見学をしてもらい、利用者さんと話して頂く。・同地区のグループホームと合同で認知症の勉強会を地域住民と行う計画を立てる。 ②災害対策強化のため、運営推進会議に地元警察署か消防署の方に参加して頂く ・年に2回行っている火災時避難訓練時などに災害対策強化について話を聞くとともに、運営推進会議の参加をお願いする。・防犯訓練の計画、実施。 ～その他～コロナ禍もあり実施できたのは災害対策強化の為の助言を消防署員さんから頂いたことと、防犯についての話し合いをした事のみだった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は開設20年目を迎え、法人・事業所として、働きやすい職場環境づくりに努めていることもあり、長期に働く職員も多い。また、事業所内は清掃や消毒、換気が行き届き、気になる匂いも感じられず、快適な空間となっている。管理者等は、利用者一人ひとりの日々の生活スタイルや、やりたいことを大切に考え、利用者に寄り添う形で時間がゆるやかに流れている。さらに、入浴時における職員と1対1の場面での会話を重視して、職員は利用者の思いをくみ取る会話を心がけている。コロナ禍においても、日常的に、利用者は事業所周辺を散歩したり、ドライブでコスモスの花を見に出かけたりするなど、気分転換を図ることができている。加えて、笑いヨガを取り入れるなど、地域の中で見守られながら、利用者は笑顔で笑いのある生活を送り続けることができている。</p>
-----------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話や行動、表情などから希望や意向を聞きだすようにしている。	◎	/	○	入居時に、職員は家族から思いや希望を聞くとともに、面会時や電話連絡時などを活用して、新たな情報を入手している。また、利用者には、入浴時などのゆっくりと話しができる場面で、思いや希望などを聞き取るようにしている。さらに、聞き取った情報は、介護日誌や連絡ノートを活用して、職員間で情報を共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族に相談したり、表情や仕草等で思いをくみ取るようにしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時(ご家族のみ)や電話などで家族に意見を聞いて、本人と一緒に相談している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の希望や思いを、本人の言葉などで記録し、皆で共有できるようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人主体で出来るだけ判断しているが、家族や職員の意向が強い時もある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前の聞き取り、情報の他、家族の面会時に確認したりし情報を得ている。何年か経ち新しい情報を得ることもある。	/	/	○	入居時などに、家族から利用者のこれまでの暮らし方などの聞き取りを行うとともに、面会時や電話連絡時を活用して、新たな情報を聞くよう努めている。また、職員は利用者のできる・できない状況も把握し、情報を整理している。さらに、健康チェックのほか、食事・排せつなどのリズムを把握し、利用者一人ひとりの情報を個人ファイルにまとめている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常生活の様子を出来る出来ないシートに記入し、共有するようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の介護記録に記入したり、ミーティングや申し送りなどで気付きや利用者さんの変化について話し合っている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	表情や行動の変化の状況や原因を職員間で話し合い対応している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	健康チェック表を確認し、個々の生活リズムに合わせ声かけ誘導を行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の生活の会話の中で、本人がしたいことや支援してほしいことを考え検討している。	/	/	○	事業所では、利用者に関するアセスメントシートや連絡ノートを活用しながら、職員間で情報を共有している。また、6か月に1回開催するケース検討会議を活用して、職員間で利用者の視点で検討をしている。さらに、嘱託医にも、日々の利用者一人ひとりの体調等を報告し、健康管理に繋がっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	毎月のミーティングやカンファレンスで、より良く安心して暮らせるよう話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	毎月のミーティングやカンファレンスでの話し合いで課題を見い出している。	/	/	/	

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	家族の意向が反映される事もある。				毎月スタッフミーティングを実施し、利用者に関するかかわり方の見直しなどの話し合いをしている。また、6か月に1回、再アセスメントやケース検討会議を実施し、利用者や家族の意見を踏まえながら、計画作成担当者を中心に職員間で話し合い、介護計画を作成している。さらに、会議では職員から意見やアイデアが活発に出され、より良いサービスを検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族に日々の様子をお伝えし意見や意向を取り入れて作成するようにしている。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	その人に合った暮らし方が出来る限り行える内容になっている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域行事への参加やイベントへの家族の参加を促し意見交換している。また、協力体制が盛り込まれた内容を心掛けている。今年も感染対策のためイベントなど中止となっている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員全員が周知できるよう連絡ノートでの確認と日々の介護記録に挟みわかりやすくしている。				介護計画は、利用者一人ひとりの個別ファイルに整理され、職員は利用者へのかかわりやサービス提供を実施している。日々のサービスの支援内容は記録されているものの、気づきなどの記載は少なく感じられる。また、事業所では、同じ内容を記録物を数か所記載する必要があるなど、省力化や職員の負担軽減までには至っていない。今後は、介護計画に基づく、かかわり方やサービスの実施状況を運動させて、確認しやすいような書類の在り方を職員間で検討するとともに、統一された記録の記載方法の勉強会を実施するなど、分かりやすい記録が作成されることを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録をもとに介護計画の期間に応じて評価、見直しを行い日々の支援に努めている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個々の介護記録に細かく記録するよう心掛けている。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個々の介護記録に気づきや工夫などを記録している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	6ヶ月ごとの見直しを行っている。また、状態変化があった時はその都度見直しを行っている。				6か月に1回、再アセスメントを行うとともに、事前に家族に書面で意向を確認するほか、事前に把握した情報をケース検討会議の中で話し合い、介護計画の見直しをしている。また、毎月スタッフミーティングにおいても、計画の見直しが必要な利用者の話し合いをしている。さらに、定期的に、担当職員が利用者の現状確認をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	大きな変化がなければ行っていない。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態に変化生じた場合は、その都度介護計画書の見直しを行っている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月のミーティングの他、緊急案件の場合は話し合い、決定事項を全員が周知している。				毎月実施するスタッフミーティングなどを活用して、職員間で話し合いをするとともに、6か月に1回ケース検討会議を実施している。また、緊急案件のある場合には、その都度話し合いをしている。さらに、会議の議事録を連絡ノートに貼り付けて、参加できていない職員も含めて確認してもらうなど、職員に伝達できる仕組みづくりができています。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	お茶などを用意して、意見などが出やすいような和やかな雰囲気話合っている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	職員各自でなるべく参加するよう努力している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	議事録を作成し、職員全員が確認し印を押すようにしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	連絡ノート、予定表、掲示板等を活用し共有している。				介護日誌や連絡ノートなどを活用して、日々の朝夕の申し送りを実施している。また、職員は書類の確認後には押印やサインをするなど、確実な情報伝達に繋げている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	連絡ノートを活用し、確認印を押して職員全員で周知している。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望に添えられない場合が多いが、出来る時に叶えるようにしている。	/	/	/	屋外の散歩や屋内の運動、計算、漢字カード、新聞・雑誌を読む、レクリエーションなど、職員は利用者のやりたいことが、できるだけ叶えられるよう柔軟な対応に努めている。また、職員は一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、笑顔で生活を送る利用者の様子を見ることができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	おやつ時の飲み物や、移動販売でパンを選んでもらったりしている。(パンの移動販売 1回/2週間)	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	希望を言ってもらったり、選択してもらったりし働きかけを行っているが、出来る利用者さんが少ない。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本的な1日の流れがあり、個々のペースになるべく合わせた支援を行っているが、職員のペースになる事もある。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者さん同士の関係に配慮し、好きな事や楽しいと思う会話や言葉掛けをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	表情や仕草を良く見て、思いを知る事ができるように努めて支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	声かけや態度を考慮して、取り組んでいる砕けた言葉使いにならないように気を付けている。	/	◎	○	事業所では、利用者の人権や尊厳に関する内部研修を行い、職員は利用者へさりげない声かけなどを行うことができています。また、事業所新聞の写真や情報の掲載など、個人情報の使用についても、事前に同意を得るなどの配慮がされている。さらに、居室の入室時には、ノックや声かけを行い、職員は確認の上で入室することができている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者さんひとり一人に敬意を払いさりげない声かけを心がけている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴、脱衣場はカーテンで仕切られていて見えないように配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時はノックや声かけをしてプライバシーに配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ミーティング時に個人情報の保護について研修を行ったりし、個人情報保護や漏えい防止に努めている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	食事の後片付け、洗濯物たたみ等を一緒に行い、感謝の気持ちを伝え良好な関係作りに努めている。	/	/	/	調理の下ごしらえや配膳、台拭き、掃除、洗濯物たたみなど、利用者ができることは職員と一緒にいき、感謝の気持ちを伝えている。また、職員は利用者同士の関係性を把握し、お互いが気持ち良く過ごせるような声かけなどの配慮をしている。以前は、認知症などの進行に伴い、被害妄想でトラブルが起こることがあったが、スタッフが早期に間に入るなど、現在は落ち着いた状態で生活を送ることができている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居後、親しくなった利用者さん同士の明るく元気な様子を見て、支え合っていく事の大切さがわかる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者さん同士の良好な関係が保てるよう配慮に努め、トラブルになりそうな場合は職員が間に入り良い関係が作れるようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルがあった時は間に入り、話を聞いて違う事をするなどし気分転換を図っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人を取り巻く人間関係については入居時に伺い、その他の方についても来訪時に伺ったりし把握するようにしている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居時や面会時にご家族、本人から聞くようにしている。今年は難しい為、電話し伺うようにしている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族に来て頂いたり、一緒に外出したりして関係を大事にしている。今年も感染対策のため難しいが電話をしたりし支援している。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	日頃の写真を居室に貼ったりし、ゆっくり過ごして頂けるようお茶を出したりしていたが、現在は玄関先で面会をして頂いている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	利用者さんの状態をみて外出している。ご家族の協力もあり、外出したり、外泊したりされている。令和2年12月からは面会制限もあり難しい。	○	×	◎	コロナ禍においても、日常的に、利用者は敷地内や事業所周辺を散歩したり、天気の良い日には玄関先で日光浴をしたり、屋外で洗濯物を干すなど、気分転換が図れるよう支援している。また、感染状況を見計らいながら、ドライブで買い物やコスモスの花を觀賞しに行くなどの工夫もしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	職員とご家族などの協力で外出している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の利用者さんはホールに出て他人居るさんの声が聞こえるよう支援している。また、職員がスキンシップや声かけを行っている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	四季折々に出掛けよう支援していたが、今年は感染対策のため難しい。人の少ない所へ外出しおやつを食べながら季節を感じられるよう支援している。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりのケアの力を把握し、必要な研修に参加し認知症について理解している。利用者さんの状態変化や要因についてミーティングや申し送り時などに話し合い、利用者さんに合った対応をしている。				テレビ体操や口腔体操などを行い、心身の機能低下を予防している。また、日々の生活の中で、家事や花の世話など、利用者一人ひとりに役割を持っていただけるような支援に努めている。また、事業所では、職員は利用者のできる・できない状況も把握し、できることは利用者自身に行ってもらったり、一緒にしたりするなど、職員は待つ介護や見守りの支援にも取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者さんの身体、精神面の機能低下等見られたらミーティングや申し送りなどで話し合い、日常生活の中で維持向上が図れるよう努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者さんの出来ることや力を活かして見守り支援し、必要以上の援助をしないよう心がけている。		◎	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者さんのひとり一人の楽しみや役割を把握し、お願ひ感謝をする事で意欲を持たれている。				お茶の葉パック詰めや排泄物等の処理に使用する新聞紙たみ、洗濯物干しやたたみなど、利用者のできる役割を担ってもらい、手伝ってもらえるよう支援している。また、利用者同士で会話を楽しめるような支援も努めている。さらに、笑いヨガを取り入れるなど、利用者が笑顔で、楽しみのある生活を送ることができている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	退屈しないよう、残された機能を少しでも伸ばせるよう支援を心がけている。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事参加や、小学校等と交流を持ったりし楽しみが持てるよう支援していたが、感染対策のため出来る事を行っている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	お気に入りの帽子をかぶるなど以前していたことが継続出来るよう、把握し見守っている。				自分で、化粧をすることや帽子をかぶるなどのおしゃれを楽しむことが好きな利用者もいる。また、起床時に、職員は声かけを行い、自分で洋服選びや髪型を整えるなど、できることをしてもらい、できないことをサポートしている。さらに、衣服の乱れなどが見られた場合には、さりげなくカバーをしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者さんひとり一人に声かけし、服装など一緒に選ぶよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者さんの目の前で声かけし、洋服など見て頂き本人の気持ちに沿って支援するようになっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時など服装や髪をとかすなどの声かけをし、その人らしさを大切に支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	髪の毛の乱れや食べこぼしなど、気付いた時にさりげなく話をしながらカバーしている。		○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理容師さんに来て頂き、希望の髪型にして頂くようになっている。また、店に行ける人には一緒に行くようになっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	重度の利用者さんも離床し、服に着替え髪も整えホールで寛いで頂くよう支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	ひとり一人の状態や、食事の一連のプロセスを大切に食事支援を行っている。				コロナ禍においても、職員は一緒に利用者や食材の買い出しに出かけ、車内での献立や買い物に関する会話を楽しくもともに、調理の下ごしらえや配膳、台拭きなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。管理栄養士や調理師のアドバイスを受けて、調理担当職員等が献立や調理方法を立案し、利用者の意見も取り入れながら、食事を提供している。家族から、野菜などの差し入れをもらったり、旬の食材を取り入れたり、事業所内の農園で収穫したさつまいもなどの野菜を活かしたおやつなどを提供している。「この食事はおいしいよ」などの言葉が出されるなど、利用者に喜ばれている。また、食事の際には、可能な限り利用者には食堂に出てきて食べてもらうほか、介助を必要とする利用者が多いことやコロナ禍において一緒に食べることはできないが、職員は利用者へ寄り添いながら、声かけやペースに合わせたサポートをしている。さらに、使い慣れた食器や箸などを使用してもらい、陶器の茶碗等を活用し、食事の雰囲気や家庭的なものにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食材選びは殆ど配達か職員が行っているが、誕生日に食べたい物を聞いたりしている。また、後片付けは利用者さんと共にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食材の下ごしらえや、台拭きなど出来ることをして頂き自信につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者さんの好みや、アレルギーの有無を把握し支援している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	地産地消で旬の物を取り入れたり、利用者さんご家族の畑で取れた野菜を使ったりし調理している。また、おやつに芋もちなど食べてもらっている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	ひとり一人の状態に合わせた食事形態を取り入れ、食事時にはテレビを消し音楽をかけるなど工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人が使いやすい食器等を使い、食事を楽しまれている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員が利用者さんと同時に食事をすることは難しいが、食事に寄り添うと共に食べこぼしなどさりげなくサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な状態であっても一食だけでもフロアでの食事が取れるよう心がけている。また、時々訪室し声かけやコミュニケーションを行っている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	健康チェック表に毎日記入し、食事量や水分量が1日を通じて確保出来るように確認、声かけを行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事が水分が少ない時には、好みの物を食べて頂いたり、また、お茶をいつでも飲めるよう声をかけし飲んでもらったり、低栄養や脱水にならないようになっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立のバランスを利用者さんご家族の管理栄養士さんに見てもらい偏りがないようにしている。また、ご指導、ご助言を頂いている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	ふきんは毎日消毒し、食器も食器乾燥機で乾燥している。また、風邪症状などのある方が使った食器も消毒するなど衛生管理に努めている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	外部、内部の研修により口腔ケアの必要性を理解している。また、職員の中に歯科衛生士がいるので、わからないことなど聞いたりしている。				事業所には、歯科衛生士の資格を持つ職員がおり、日常的にアドバイスをもらうことができている。また、毎食後に、職員は声をかけ、歯磨きなどの口腔ケアを可能な限り、利用者自身で行えるよう支援している。必要に応じて、自分でできない場所は職員が介助をしている。さらに、自分で歯磨きができる利用者を含めて、口腔内の状況を確認することができている。加えて、異常が見られた場合には、状況に応じて、歯科医の診察を検討している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日の口腔ケアにより、ひとり一人の状態を知り把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	外部や内部の研修により、口腔ケアの正しい方法について学び、歯科衛生士に聞いたりしている。また、必要あれば歯科受診している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	食後、就寝時など義歯を洗浄したり、ボリデントにつけたりしている。自分で出来る方には見守り、声かけを行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	口の中の汚れや臭いが生じないように、出来る事はして頂き、できない方には声かけし支援している。口腔内のチェックなども行っている。必要に応じ歯科受診している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	痛みや腫れなどあれば、ご家族に連絡し了解を得てから受診するようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ひとり一人の排泄リズムを掴み声かけし、トイレでの排泄を重視している。				事業所では、声かけやトイレ誘導を行い、利用者ができる限りトイレで排泄できるよう支援している。中には、布パンツで過ごすことができている利用者もいる。また、排せつのリズムなどをチェックし、利用者一人ひとりのタイミングに合わせた声かけをしている。さらに、服薬している利用者が多いものの、ヨーグルトや牛乳、食物繊維を含んだ食材を活用するとともに、毎日の運動を行うなど、自然排便が行えるよう取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排泄チェックを行い、状態に応じ下剤を服用したり、水分や運動を勧めたりしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄パターンを把握し、排泄確認を行っている。また、お腹の張りも確認している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排泄を重視し、ひとり一人の状態に合ったおむつ、紙パンツや尿取りパットのを使用している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分や運動、食物繊維を増やしたり、それでも出ない場合は主治医に相談し下剤を服用している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	ひとり一人の排泄パターンに合わせて声かけやトイレ誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中、夜間帯にどのようなものが必要か、排泄の状態をご家族に説明し支援を行っている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	ひとり一人の排泄の状態に合わせて使い分けるよう支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	乳製品、食物繊維等の多い物を食べてもらったり、腹部マッサージ、運動等行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週に2~3回、入浴剤を入れゆったり入って頂くよう声かけし行っている。	◎		○	週2回を基本として、利用者は入浴することができる。また、入浴時には、気持ちに合わせた誘導を行い、できる部分を自分で洗ってもらっている。また、入浴剤を活用するなど、職員は利用者気持ちよく入浴してもらえることを目指した支援に取り組んでいる。さらに、入浴を拒む利用者には、時間や日にちを変更したり、声かけを工夫したりしながら、入浴してもらっている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	浴槽に入り、昔の話を聞いたりし、ゆったりとして頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来るところはして頂き、出来ないことを介助し、安心し入浴して頂いている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否のある方は、時間をずらし声かけしたり、他の日に入って頂くなどし、気持ちよく入浴できるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前に健康状態を確認し、入浴中も全身状態確認、入浴後も水分をとってもらったりし観察を行っている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日中、夜間の申し送りでもパターンを把握し情報の共有を行っている。				事業所では、日中の運動やレクリエーション、計算や漢字などの知的な刺激活動、屋外散歩、日向ぼっこなど、様々な活動や会話を取り入れながら、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。中には、眠剤などの服薬をしている利用者もいるものの、昼寝や休息を取り入れながら、服薬していない利用者も多い。また、服薬によるふらつきなども見られるため、医師に相談しながら、極力服薬に頼らない支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中出来ることをしてもらい、フロアで過ごして頂くなど活動を増やし生活リズムを整えている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安易に薬に頼るのではなく、日中役割を持ち過ごしてもらったり、レクリエーションをするなどし、主治医や看護師とも相談しながら支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ソファやこたつ、居室などで昼寝をして頂いたりし、心身が休めるよう努めている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	利用者さんが希望されれば、電話をかけたり、年賀状が届けばやりとりが出来よう書く練習をしたりしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	書こうとする意欲のある時を見計らって声かけし、鉛筆と紙を手渡したりしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ホームにかかってきた時に、「お話しされませんか？」と本人に受話器を手渡ししたり、本人から希望があり連絡するなどしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に手渡して読んだり、居室に掲示したりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	契約時や来訪時にご家族にご協力をお願いしている。また、ご家族より、本人がよく見えるようにベッド横の壁に貼って欲しいなどご希望がある。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員はお金を使う事の大切さを理解し、外出時にはお金を使って頂いたりしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	限られた方にはなるが、買物や外出した時にお金を使う機会をつくっている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近所のレストランやカフェ、お店や美容室にご理解とご協力を頂き、利用させて頂いていたが、感染対策のため外食は難しい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	いつもお金を所持している方はいないが、利用者さんやご家族と相談しながら外出時や買物に行った時などにお金を使えるようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人やご家族と相談し、お金を使っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	契約時に預かり金のこと、管理や確認方法などをお伝えし本人、ご家族の同意も得ている。来訪時に現金を確認して頂き、サインをもらっている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時の状況などに応じ、本人やご家族の意見を伺い、職員間でも話し合い柔軟な支援が出来るよう努めている。	◎		◎	コロナ禍において、外出や面会制限は設けられているものの、訪問マッサージの利用や理容師の訪問など、事業所では利用者や家族の要望に応じて、可能な範囲で柔軟に対応をしている。また、家族とともに、病院受診の準備を行っている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	常に玄関は開いていて、居住スペースに行き来出来るようにしている。	◎	◎	◎	事業所では、日中は常に玄関の鍵を錠せず、利用者が自由に出入りできるようにしている。また、玄関周りには花を植えているほか、敷地内には畑もあり、家庭的な雰囲気づくりを行い、来訪しやすさが感じられる。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	利用者さんが居室と共用スペースで寛げるよう、壁面には皆で作った壁飾りを四季に合わせて飾っている。	◎	◎	◎	事業所の廊下には、一緒に作った季節の作品が飾られ、利用者や来訪者は季節を感じる事ができる。食堂と居間の兼用スペースには、ソファなどが置かれ、思い思いの場所でくつろぐことができる。また、利用者は両ユニットを自由に行き来することができ、開放感がある。清掃や消毒、換気が行き届き、気になる匂いも感じられず、快適な空間となっている。さらに、日めくりカレンダーがあり、季節や日付を分かりやすくしている。加えて、食事の際には音楽を流してメリハリをつけるなど、食事の雰囲気を楽しめるようにしている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎朝清掃し、臭いがないよう消臭スプレーを使用したりしている。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	花畑に咲いている季節の花を飾ったり、日付が分かるよう日めくりのカレンダーや時計を見やすい位置に設置している。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲の良い利用者さん同士で話したり、一人になりたい時は居室で横になったりと自由に過ごして頂いている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ドアやカーテンで仕切られ、直接見えないう工夫している。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族写真を飾ったり、使い慣れた道具、日用品、布団などを使って頂いている。	◎		◎	居室には、エアコンやベッド、タンスなどが備え付けられている。また、家族の写真や位牌、時計などを持ち込み、心地良い空間づくりをしている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	ひとり一人の分かる事や力を活かして支援し、必要以上の援助はしないようにしている。また、自宅と同じような簡易手すりを設置し快適に過ごせるようにしている。			◎	事業所の建物はバリアフリーの構造で、手すりも設置され、利用者は安心して移動できるようになっている。また、利用者が迷わないように、居室やトイレの方向が分かりやすいように矢印などが表示されている。さらに、食堂にはポットと急須が置かれ、利用者は自由に使用し、お茶を飲みたくなるような雰囲気づくりをしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	便所や自室が分かるようにプレートをつけたり、衣類など名前をはっきり書くなどしている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	喉が渴いたらお茶がいつでも飲めるようにポットや急須、ゆのみなどをさりげなく置かれている。また、洗濯物をたたんでいる時に衣類のボタンが取れていれば、いつでも裁縫道具が使えるようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関を開放し、ユニット出入り口は行き来しやすいようにし、代表者及び職員全員が鍵をかける事の弊害を理解している。	◎	◎	◎	日中には、事業所の玄関や利用者の居室は常に開放されており、利用者は自由に出入りすることができるようになっている。また、事業所として、地域住民へ事業所のことや利用者の様子などを周知することで見守りにも繋がり、利用者は安心して敷地内や事業所周辺を散歩できる見守り体制づくりができている。さらに、玄関にはセンサーが設置され、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	行動を制限しないよう声かけ、見守りしている。先に昼食を摂った職員が、散歩に行きたい利用者の目配りをし、そのほかの職員が、2名介助が必要な利用者の対応をするようにしている。必要あればご家族と話し合っている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関にはセンサーを設置し、外に出ようとする方には声かけし、一緒に散歩に行くようにしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	利用者ひとり一人の記録をいつでも見ることが出来るよう保管している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	体調管理をしている。変化がある時は再チェックを行い記録している。必要時は主治医に連絡している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	異変がある時は、医師、看護師に報告、相談し適切な受診が出来るようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	これまでの受療状況に応じて、医療機関に受診が出来るように支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	緊急時などすぐに連絡が取れるようにしている。定期的に医師、看護師に来て頂き、健康管理をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院時、結果を報告し、情報を伝達、共有し話し合っている。また、ご家族が受診に同行して頂くなど協力して頂いている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時、本人に関する情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	安心して治療が出来るよう情報提供を行い、情報交換や相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	大洲市内の福祉関係の研修や懇親会時に情報交換を行い、連携がいつでも取れる関係づくりに努めていたが、感染対策のため。メールや電話でやり取りしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	変化に気付いたら職員同士で話し合い、主治医や看護師に相談している。毎朝、前日に変化のあった利用者の状態をFAXで送っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	常に主治医と連絡が取れる状態にあり、相談し指示を受け対応している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるような体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタルチェックや状態観察を行い、介護日誌や申し送りに記入している。浦岡医院に必要な方の申し送りをFAXで送っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋の内容を理解し、変更があれば連絡ノートに記入し情報を共有している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	朝昼夕と色分けしたり、日付、名前を確認して服用してもらうようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	下剤や安定剤などは、本人の状態を確認し服用して頂いている。体調変化がないか日頃から観察している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	誤嚥性肺炎を起こす方がいるが、痰が絡んでいないか、食事の飲み込みはどうかなど確認、記録をし医師、看護師に情報提供をしている。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態が悪くなれば、医師や看護師と相談し、早目にご家族に相談し意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時や状況に応じて、利用者の思いや家族の希望を聞くとともに、医師を交えて話し合い、方針を共有している。また、年1回看取り介護等の研修を行い、職員間で対応方法を確認できている。さらに、事業所では、多くの看取り介護の経験があり、法人の医療機関の連携や協力体制もできており、職員は慣れた対応ができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	状態が悪化した場合、どうするか希望を確認しご家族、医師と共に話し合い方針を共有している。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看取りを経験した時に、ミーティング時 看取りをして良かったことを聞いたり話し合ったりしている。思いを知り、力量を把握したり、見極めを行ったりしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	協力医療機関と連携し、出来ることを行う事を説明しご理解頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	穏やかな最期を迎える為に、医師、看護師、職員で連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	体調の変化を確認しながら、早目にご家族に連絡し、ご家族の希望を取り入れたりしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	毎年感染症研修に参加し、ミーティングで研修報告している。意見交換や、改善点など話し合っている。現在はウェブ研修に参加している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成し、吐物キッドを用意し速やかに対応できるようにしている。ミーティング時に確認を行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	保健所や行政、医療機関、インターネットを通じ感染症発生状況等、情報を入手し対応できるようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	手洗い、マスク、手指消毒を行い、感染予防をし流行に随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	玄関には、マスク、手指消毒、貼り紙をし感染予防に努めている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	信頼関係が築けるよう、安心した声かけ、対応を心がけている。	/	/	/	コロナ禍以前は、遠足やクリスマス会などの行事に、家族の参加協力を呼びかけて、交流を図ることができていたが、現在のコロナ禍において、事業所での行事や活動は職員と利用者のみで行い、家族の呼びかけは自粛している。また、行事や事業所内の様子は、やすらぎの家新聞や写真などを家族に送付して伝えるとともに、新聞には写真をふんだんに取り入れることで、家族に日常生活をイメージしてもらいやすくなるような工夫をしている。さらに、訪問調査日には、野菜などの差し入れを持ってくる家族の姿を見ることができた。加えて、運営推進会議の中で、利用者の様子や事業所内の出来事などを報告するほか、電話連絡時に近況を伝えることはあるものの、現在のコロナ禍において、紙面による報告と、ハガキによる意見集約が多くならざるを得なくなっている。利用者家族等アンケートは、多くの家族から回答の協力を得ることができている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	お茶や椅子を居室に運んだり、気軽に訪れる雰囲気をづくり、自由に過ごして頂けるようにしていたが、今年は感染対策のため電話連絡などをし関係構築できるようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	ご家族が行事に参加出来るよう案内状を出して、信頼関係が築けるようにしていたが、今年は感染対策のため電話連絡を信頼関係が築けるようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	定期的に広報を発行している。請求書送付時に写真などを送り、日頃の様子を伝えている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	ご家族が知りたいことや、不安に感じている事など、希望が開けるよう連絡をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	日頃の様子を報告することによって、情報を共有し対応している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の事柄や、出来事についてその都度報告し理解を得るようにしている。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事等に参加して頂き、ご家族同士交流を図れるようにしていたが、今年は感染対策のため難しい。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	安心安全に過ごせるように、ご家族に理解してもらえるよう連絡した時などに話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にやっている。	○	現在の状態を報告、必要に応じて電話連絡している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には契約書、重要事項説明書など説明し、ご不明な点などあれば伺い、変更があれば書面にてお知らせしご理解を頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	死亡退去、入院長期により退去が殆どではあるが、他施設移動の為退去の時には、情報提供など協力させて頂いている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び内容変更時には、理由などを書面にて説明し同意を頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	運営推進会議時や年1回の地区懇談会時に、ホーム内の現在の状態などをお伝えし、ご理解を頂いていたが、現在は報告書と、返信用の葉書を同封し意見や助言を頂いている。	/	○	/	コロナ禍において、ほとんどの地域行事が中止され、ボランティアの受け入れも含めた交流できる機会は減少しているものの、利用者と一緒に事業所周辺を散歩する際には、地域住民と挨拶を交わすとともに、地域に事業所新聞を回覧してもらうなど、事業所では継続したつながりを意識した対応に努めている。また、近隣住民の見守り体制や、よく近隣住民から、「コスモスの花を持って行きなさい」と声をかけてくれるなど、良好な関係も構築されている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩時など近所の方への挨拶をしている。広報を回覧で回したり、公民館に置かせて頂いている。地域の行事は中止の為参加できていない。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者さんが散歩に行ったり、外出したりする時などに声をかけて頂く。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近くの幼稚園、小学校、中学校と交流を持ち、定期的に行き来していたが、今年も感染対策のため出来る事をしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩中に声掛けをしたり、挨拶を交わしたり良好な関係を築いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近隣のボランティアの方達が、定期的な笑いヨガや三味線の演奏など来て頂いていたが、今年も感染対策のため難しい。DVDを頂きDVDを見ながら笑いヨガをしている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	ひとり一人の残存能力を維持出来るよう、必要な方には訪問マッサージを利用して頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くの公民館を利用し避難訓練を行ったり、誕生会には近くのレストランでお茶を飲みに行ったりして関係を深めていたが、今年も感染対策のため難しい。出来る事を行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	公民館長さんや小学校の校長先生、ご家族や利用者さん、近所の笑いヨガの先生などに参加して頂いていたが、今年も感染対策のため難しい。書面で報告を行っている。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、地域関係者、市担当者等の参加を得て開催している。コロナ禍以前は、会議の開催前の時間帯に、笑いヨガなどを取り入れて、参加メンバーや家族に参加してもらいやすい工夫をすることもできていた。また、現在のコロナ禍において、書面での会議開催となり、資料を送付した報告と、書面での意見集約に留まらざるを得なくなっている。さらに、会議では、外部評価のサービスの評価結果等を報告し、意見をもらうこともできている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者さんやサービスの実際、自己評価や外部評価を行った時には内容の報告をし、不明な点など伺っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回意見交換を行い、取り組んだ時には報告をさせて頂いている。今年も感染対策のため難しい。書面に報告を行っている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	運営推進会議の前に、近所の笑いヨガの先生に笑いヨガをして頂き話しやすい雰囲気作りをしている。2ヶ月ごとの第3木曜日に行っていたが、今年も感染対策のためできていない。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ホーム内掲示、運営委員、ご家族に議事録を送っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「うるおいのある生活を共に」の理念について共通意識を持ち、利用者さんと共に考えたケア理念を大切に日常生活を行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニット食堂に理念を掲示し、説明するようにしている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	週に3～4回は来られ、スタッフひとり一人の力量を把握し、研修に参加出来るよう助言を頂いている。	/	/	/	日々の業務の中で、管理者は職員と一緒に利用者への支援をしながら、対応方法や助言を行うなど、気軽に相談や話しができる関係づくりができています。また、法人・事業所として、慰労会などの福利厚生との交流の機会は減っているものの、職員の誕生日を祝うなどの心遣いもあり、勤続年数の長い職員も多い。さらに、職員は事業所内の研修や外部のウェブ研修などに参加し、スキルアップを図ることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日々の業務の中で、個々の状況に応じ対応法、考え方など助言を行っている。内外研修、実務者研修など参加し、資格取得出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	給与の決定、労働時間など把握し各自が意欲を持ち働けるよう管理者、職員と話す機会をもっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	市のグループホーム連絡会、地域密着型サービス協会の行う研修に参加したり、その他食事摂取、嚥下の勉強会をグループホーム内で行っていたが、今年も感染対策のため難しく、研修自体も減っている。出来る事を行っている。(ウェブ研修)	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1回慰労会で話を聞いたり、ビンゴゲームをしたり職員の誕生日には花束を送ったりしている。現在、慰労会は感染対策の為 行っていない。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	拘束や暴力等だけでなく、言葉掛け、自分がされたら嫌な事はしないように心がけている。内部や外部の虐待や拘束についての研修(ウェブ)に参加し学んでいる。	/	/	/	事業所では、毎月実施する内部研修で虐待防止等をテーマに取り上げてを実施し、職員は学んで理解をしている。また、日々の申し送りやスタッフミーティングを活用して、不適切なケアなどの話し合いをしている。さらに、利用者へのかかわり方などで、気になる行為が見られた場合には、職員同士で注意し合うなど、意識を高めながら支援を行うことができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りやミーティング時など、当日出勤者とその都度話をし情報の共有を行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	不適切なケアがあった場合、職員から職員へ直接注意をしたり、代表者、管理者から話をしたりし見過ごす事のないよう努めている。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時や利用者対応時などに口調や対応の変化に注意し、変化があれば声かけし話すようにしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員全員で理解出来るよう、年に1回は身体拘束について研修を行っている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング時などにどのような事が拘束になるのか話し合ったり、日々の対応時にもその都度話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	契約時にグループホームでは拘束を行わないことをお伝えしている。必要時は話をし、理解して頂くよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	年に1回は成年後見制度についての研修を受け、学ぶようにしている。成年後見制度を利用している利用者さんがいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	グループホーム内にパンフレットを準備し、情報提供出来るようにしている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	どのような社会資源があるか調べ、必要であれば社協や以前利用者が利用していた司法書士等と連絡可能である。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	独自のマニュアルを作成し、定期的に緊急時の研修を受け職員全員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	日々の対応時に応急手当が出来るようにしている。必要時に看護師による指導もしてもらっている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ひやりはっと・事故報告担当者が毎月まとめ、ミーティング時に職員間で検討をし再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングやケースカンファレンス時にリスクについて検討し、必要であれば介護計画書に入れ、職員全員で取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情担当は管理者で、マニュアルを作成し職員にも周知し対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	地域の方から苦情があった場合は、代表者に相談し対応している。必要時には市役所にも相談、報告を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	地域、ご家族共に良好な関係が築けており、より良い信頼関係作りを努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	介護相談員さんが2ヶ月に1回来られ、利用者さんひとり一人が苦情を伝えられる機会を作っている。			○	日々のかかわりの中で、職員は利用者から話しや意見を聞いている。定期的に、介護相談員が来訪し、利用者や顔馴染みとなり、話を聞いている。また、コロナ禍において、家族の来訪する機会は減っているものの、面会時や電話連絡時、ハガキなどを活用して、意見を聞くようにしている。さらに、事業所の玄関には意見箱も設置され、意見を取り入れて、サービスの向上に努める姿勢を窺うことができる。加えて、日々の業務の中やスタッフミーティングなどで、管理者は職員の意見を聞くことができる。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や来訪時など直接話を聞き伺っている。また、事業者の相談窓口、市役所、国保連等の相談窓口があり重要事項説明書にも記載している。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	公的な窓口だけでなく、病院や元担当のケアマネさんなど相談できることをお伝えしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	週に3～4回は来られ職員の意見など聞いている。また、ミーティングに参加することもある。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや申し送り、日々の業務の中で支援の方針などを話し検討している。				

愛媛県グループホームやすらぎの家

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	毎年自己評価を全員で行い、目的を理解するとともに、必要があればミーティングで話し合いを行っている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、全ての職員で意見を出し合い、管理者が取りまとめとして作成をしている。また、サービスの評価結果や目標達成計画等の取り組みは、運営推進会議の中で報告し、意見をもらうことができている。さらに、評価結果は事業所内で自由に閲覧できるようにしているほか、家族にも結果を送付することができている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を行い、出来ている事、出来ていないことを明らかにするとともに、意識統一の機会として役立てている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	外部評価を踏まえ、達成可能なものに順位をつけ事業所全体で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	外部評価結果などをご家族にお送りし、運営推進会議時にも結果報告や今後の取り組みを伝え、ご指導を頂くようにしている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	具体的な取り組みはお伝えしているが、常に確認は出来ていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、訓練後にミーティングなどで改善するところはないか話し合っている。	/	/	/	事業所では、原子力災害や地震災害、風水害に関するマニュアルなどを作成するとともに、年2回避難訓練を実施している。また、コロナ禍以前は、地区の防災訓練に参加協力できていたが、コロナ禍において参加を控えており、管理者は感染状況が落ち着けば、再度参加を予定している。さらに、災害発生時には、近隣住民や職員の家族等に、協力してもらえよう願っている。加えて、米などの食料品を余分に備蓄するなどの対応もしている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際に公民館へ避難し、公民館の職員にも手伝って頂いていたが、今年は感染対策のため難しい。やすらぎの家に様々な時間を想定した避難訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	訓練時に備蓄している物を試食したり、期限などの確認も行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地域の公民館や、消防署、他事業所などと話し合う機会をつくり連携を取っている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	シェイクアウト訓練や、原子力防止訓練、地区の訓練などにも参加し地域の災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地区の福祉懇談会などに参加し地区のお年寄りが所在不明の場合、協力させて頂くことをお伝えしている。また、公民館に広報を置かせてもらったり、地区の回覧板で広報を見て頂いたりしている。	/	/	/	事業所では、市グループホーム連絡会や地域密着型サービス協会に参画するとともに、地区の福祉団体や公民館とのつながりもできている。また、事業所新聞を地域に回覧板を活用して周知するなど、協力関係や地域に知らせる取り組みも行われている。さらに、地域住民から認知症に関する相談もあり、地域の福祉の拠点として認識されている。加えて、市行政や地域包括支援センターなどと連携を図ることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方からの相談の連絡があり、実際に来られ相談支援を行っている。	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	認知症カフェなど開催出来たらと思っているが、業務に追われ余裕がない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	中学校の福祉体験や社協が行っているボランティアの受入れに参加していたが、今年も感染対策のため難しい。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントや地区の清掃等に参加していたが、今年も感染対策の為、行事等中止されている。やすらぎの家の周りの道路の清掃や除草など出来ることをしている。	/	/	○	